

## 「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表

申請担当大学名	名古屋大学
連携大学名	岐阜大学、三重大学、浜松医科大学
事業名	東海国立大学病院機構CSTネットワーク事業

### ① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	東海地区の国立大学で連携し、サージカルトレーニングの機会をより多くの大学院生(医師)に提供することで将来を担う指導者を輩出するとともに、新規手術手技や医療機器の開発・研究など新たな医療資源の創出を目標とする。

### ② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		R1年度	R2年度	R3年度
インプット ・ プロセス (投入、 入力、 活動、 行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレセミナーの開催</li> <li>・R1年度臨床解剖学コース(メインコース)の募集: 5名</li> <li>・R1年度臨床解剖学コース(インテンシブコース)の募集: 2名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度臨床解剖学コース(メインコース)の募集: 10名</li> <li>・R2年度臨床解剖学コース(インテンシブコース)の募集: 6名</li> <li>・事業運営委員会の開催(1回)</li> <li>・外部評価委員による事業評価委員会の開催(1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度臨床解剖学コース(メインコース)の募集: 10名</li> <li>・R3年度臨床解剖学コース(インテンシブコース)の募集: 6名</li> <li>・事業運営委員会の開催(1回)</li> <li>・外部評価委員による事業評価委員会の開催(2回)</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携大学と事業運営委員会の開催</li> <li>・担当教員連絡会議(教育委員会)の設置</li> <li>・遠隔講義・実習配信システムの設置</li> <li>・専用ホームページの作成及びプログラムの広報</li> <li>・受講者へのアンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員連絡会議(教育委員会)の開催</li> <li>・カリキュラム修正</li> <li>・受講者へのアンケート調査</li> <li>・関連学会等で事業内容の広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員連絡会議の開催</li> <li>・カリキュラム修正</li> <li>・受講者へのアンケート調査</li> <li>・関連学会等で事業内容の広報</li> </ul>
アウトプット (結果、 出力)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R1年度臨床解剖学コース(メインコース)修了: 5名</li> <li>・R1年度臨床解剖学コース(インテンシブコース)修了: 2名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度臨床解剖学コース(メインコース)修了: 10名</li> <li>・R2年度臨床解剖学コース(インテンシブコース)修了: 6名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度臨床解剖学コース(メインコース)修了: 10名</li> <li>・R3年度臨床解剖学コース(インテンシブコース)修了: 6名</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの確定</li> <li>・遠隔講義・実習配信環境の整備</li> <li>・事業Webサイトの完成</li> <li>・受講者アンケート結果の収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業推進上の改善点の明確化</li> <li>・カリキュラムの確定</li> <li>・事業Webサイト等による事業内容の発信</li> <li>・受講者アンケート結果の収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業推進上の改善点の明確化</li> <li>・カリキュラムの確定</li> <li>・事業Webサイト等による事業内容の発信</li> <li>・受講者アンケート結果の収集</li> </ul>
アウトカム (成果、 効果)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者に対するアンケート調査において満足度60%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者に対するアンケート調査において満足度70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者に対するアンケート調査において満足度80%以上</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東海国立大学病院機構CSTネットワークの認知度が上昇する。</li> <li>・遠隔講義・実習配信システムの整備により、大学間で映像配信を用いた教育が可能な環境が整備される。</li> <li>・受講者からの意見を次年度カリキュラムへ反映することで、より改良されたカリキュラムとするとともに、受講希望者数の増加につながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献体を用いたサージカルトレーニングや手術手技・医療機器開発への認知度が上昇する。</li> <li>・連携大学への配信を通じて、他大学の講義を遠隔地から受講することができる。</li> <li>・自己評価および外部評価の意見に加えて、受講者の意見を取り入れたことによって、より改良されたカリキュラムが作成される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生のキャリアパスの構築</li> <li>・本事業により作成されたカリキュラムが東海地区以外にも波及する。</li> <li>・映像配信されることで、教員の指導力の継続した向上につながる。</li> </ul>

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	事業の実施に当たっては、今回のテーマの背景を明確に理解し、確実に取り組むべき課題として、全国の大学を先導し、学長のリーダーシップの下、責任体制を明確にした上で全学的な実施体制で行うこと。また、事業期間終了後も各大学において、長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について検討し、自立化した事業体制を構築すること。	本事業よりも前から、本学では附属病院長を運営委員に含めたCALNA(Clinical Anatomy Laboratory Nagoya)運営委員会を立ち上げ、CST(Cadavar Surgical Training)セミナーを開催し、延べ235名が参加してきた実績がある。本事業の展開にあたって大学院医学系研究科長のリーダーシップの下、各連携大学1～2名の教員が事業推進委員となり、責任をもって事業を推進する。事業期間終了後も各連携大学の事業推進委員を通じて様々な診療科の参加を呼びかけ、受講者数の増加につなげたい。
②	客観的なアウトプット、アウトカムを年度毎に明確にした上で、自己点検・評価や外部評価を実施し、事業の改善を行いつつ、全国のモデルとなる体系的な教育プログラムを展開すること。その際、本事業における多職種養成等の特性を踏まえ、履修する学生や医療従事者等が受講しやすい環境整備に配慮するとともに、受講者のキャリアパス形成につながる体制を構築すること。	事業推進委員会の下、事業の年度ごとのアウトカム・アウトプットを明確にし、進捗管理、自己点検・評価を行う。コースの修了者へは学生アンケートを実施し、受講者からのニーズを拾い上げる。また、外部評価委員会を年1回開催し、これらで指摘された改善点等について事業の改善を継続して行う。
③	事業の実施状況や成果等を可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。また、他大学の参考に資するよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等についても積極的に発信するなど、成果等の普及・展開に努めること。	本事業で得られた成果や効果、事業運営において明らかとなった改善点を含め事業運営委員会と担当教員連絡会議を通じて連携大学間で共有するとともに、本事業Webサイト等で積極的に外部へ発信する。また、教員や大学院生が参加する学会や講演会等で本事業の取り組みについて広く公開するとともに、サージカルトレーニングに対する理解を普及させていく。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(充実を要する点)	対応方針
遠隔講義による参加は評価できるが、実際のご遺体を用いた手術手技の履修についても、独自の技術の開発を期待したい。	本事業で整備する設備によって「患者画像データからヴァーチャルシミュレーションを行い、ご遺体によるシミュレーションを経て実際の患者さんの手術をする」流れを確立させることが可能となる。ヴァーチャルシミュレーションとご遺体どちらも用いることが可能であることは、より高い学習効果が得られるため手術の安全性が担保され、さらに新しい手術手技・医療器具開発が期待できる。
事業成果の普及において、東海以外の他大学にも成果が拡大するような取り組みを期待したい。	本事業では、全国900以上の大学・研究機関等が加入している学術情報ネットワークSINET5によるネットワークと映像配信システムが整えば、東海地方以外の地区でも遠隔実習が可能である。また、今後すでにCSTセミナーを開催している全国の国公立・私立大学との連携や、有機的な協働によって新たな成果の発掘につなげていきたい。

⑤ 本事業ホームページURL(※ 提出時点でホームページが作成できていない場合は、作成見込年月を記入するとともに、完成次第URLのご連絡をお願いします。)

当該事業ホームページURL	2020年3月作成見込み
---------------	--------------